

則にゆっくり動かし、左手の協応動作は小さいことが認められた。

C-23 まつりぐけの人間工学的研究

金蘭短大 ○北田 伸子
稲田 しげ

1. 前報では手法的に異なるまつりぐけと三つ折りぐけの動作について、短大学生と職業的熟練者のそれと比較し、作業動作の単位当り所要時間につき分析を行った結果、これら手法的違いによる大きな差は認められなかったが、熟練者と未熟練者における習熟による差が大きく認められたので、今回は主として両手指先の動きについて、まつりぐけと三つ折りぐけにおける熟練者と未熟練者を比較考察し、被服構成の技術指導面における根拠を得たいと思った。

2. 動作分析における8ミリカメラの高速度撮影のコマ数及び時間は第1報と同様であるが、今回は特に材料を限定せず各自の動作が十分発揮できる様考慮した。

3. まつりぐけ熟練者右手の動きは、指貫を使って針先を回転して抄い、手根関節を規則的に速く内外転させて動作し、未熟練者は指貫を使わず前上腕を大きくゆっくり動かし動作を行っている。又三つ折りぐけ熟練者の左手の動きは、右手動作に協応させ大きく手根関節を内外転させ規則的で速いが、未熟練者は左手を僅かに協応させ、右手前上腕を大きく動かしている。まつりぐけ・三つ折りぐけ共熟練者においては、前上腕を固定し手根関節を規則的に速く内外転させ、左手は右手の動きに協応させているが、未熟練者は指先を固定し前上腕を不規